



## 名古屋市博物館常設展「尾張の歴史」

名古屋市博物館の常設展は昭和53年10月に開設し、約100万人の観覧者にご覧いただきましたが、このたび、1年をかけて、展示内容、施設の全面改装を行い、本年7月1日にオープンしました。新しい常設展では、「窯業」、「まつり」などの尾張の歴史上特徴的な事柄をテーマとして取りあげて地域史の特色を出すとともに、テレビ画面を使用した最新の解説システムを採用し、展示室も明るく開放的なものとなりました。

(名古屋市博物館 主査 水谷栄太郎)

## 目 次

- 平成元年度愛知県博物館等職員研修会報告…………… 2
- 新規加盟館紹介…………… 5

## 平成元年度 愛知県博物館等職員研修会報告

平成元年度愛知県博物館等職員研修会が、平成元年9月7日(木)～8日(金)にかけ、豊橋勤労福祉会館を中心として豊橋市内において開催されましたので、その概要を御報告いたします。

日程 第1日目(会場 豊橋勤労福祉会館)

13:00～13:40 受付・あいさつ

愛知県教育委員会文化財課熊崎勝利氏、愛知県博物館協会会長山田五夫氏、豊橋市教育委員会文化課長権田明夫氏

13:40～17:00 研究協議

テーマ 「博物館・美術館の展示効果」

上記議題のもと、名古屋市博物館学芸係長井上光夫氏、豊橋市自然史博物館学芸員井澤伸恵氏、豊橋市地下資源館学芸員坂本博一氏、おかざき世界子ども美術博物館学芸員荒井信貴氏、熱田神宮宝物館学芸員野村辰美氏の5氏による事例発表があり、参加者による質疑応答が行われた。



研究協議終了後、研修会第2部(懇親会)に移り、熱心な討論や情報交換を行い、親睦が深められた。

日程 第2日目(見学会)

2日目の見学会は、2台のバスに分乗して目的地を巡った。最初は豊橋市自然史博物館で、講堂において同館資料係長福井良光氏の概要説明があった後、自由見学。次は豊橋市地下資源館で、ここも自由見学をした。昼食後に急遽見学させていただくことになった愛知県博物館協会新規加盟の名志苑美術館では、代表取締役小林敏一氏の案内で刀剣や絵画コレクションと施設を拝見することができた。午後の豊橋市美術博物館は希望者だけ立ち寄り、常設展を見学した。

2日間にわたる研修会は、無事終了した。

### 研究協議の概要

テーマ「博物館・美術館の展示効果」

実行委員 大野俊治

平成元年度愛知県博物館等職員研修会で行われた研究協議についてその概要を報告します。

今回のテーマ設定にあたり、4月13日に開催された実行委員会の席上で討議され、昨年と同一テーマであるが、博物館・美術館にとって重要な問題であるし、前回は結論が出ないまま終了したので今一度やってみたらどうかという意見が出て、全会一致で決定した。

しかし、各館の性格や運営方針、あるいは取り扱い資料の内容や観賞対象者も異なり、学芸員の立場や考え方もさまざまである。このテーマは、意思統一を図ることのできる問題ではないであろうし、逆に多様であってよいと思う。

以上のような観点から、今回は性格の異った館の担当学芸員の方々に展示及び展示効果について事例発表をお願いした。

時間の制約により、十分な意見交換はできなかったが、新しい展示手法の紹介や問題提起もあり、参考になる意見が出された。

以下、事例発表の内容を要約して紹介する。

#### <名古屋市博物館学芸係長 井上光夫氏>

『常設展における展示の実際とその効果について』

名古屋市博物館では、平成元年7月1日に従来の常設部門を改装一新させ、オープンしたが、改装を必要とした経緯、改装の視点、展示のテーマなどを中心に説明が行われた。

##### 1 改装を必要とした問題点

①開館から10年が経過し、客足がのびない。②物理的な面で模型等のヒビや褪色がめだつ。展示可動物等の部品類が製造中止となっており、補修がきかない。③サービス面で、展示室に入らなければエレベーターやトイレが利用できない。一方的な強制導線であるので自由に目的場所へ行けないなど不便である。

##### 2 改装の視点

- ①明るく広い空間でゆったりと観賞できるように配慮した。
- ②具体的には、遮蔽物であったパネルを取り除き、展示空間全体を見渡せるようにした。
- ③実物資料を中心に物から情報を伝達し、学習することを基本にした。
- ④解説パネルをできる限り取り除き、詳細解説などの情報は、テレビモニターで必要に応じて検索で

きるようにした。

㊦導線は、フリー導線とモデル導線の二種類を設定した。

㊧近現代の資料等は、動く年表に収め、わかりやすくした。

3 展示のテーマ(各時代のシンボルを4箇所に設置し、16のテーマを設けた)

\*先史 ①狩猟・採集の時代②稲作のはじまった頃  
③古墳とその時代

\*古代・中世 ④古代の尾張⑤窯業⑥中世の尾張

\*近世 ⑦尾張の統一と信長・秀吉⑧尾張藩の成立  
⑨城下町の人々⑩近世尾張の文化

\*近代 ⑪幕末維新の尾張⑫名古屋市の成立と近代  
産業⑬近代のくらしと文化⑭戦争と市民

\*なりわい、まつり ⑮なりわい⑯まつり

新しくなった常設展示について来館者の反応は「明るくなった」「見やすくなった」と好評のようである。

#### 〈豊橋市自然史博物館学芸員 井澤伸恵氏〉

『豊橋市自然史博物館の展示手法について』

豊橋市自然史博物館は、豊橋市政80周年を記念して昨年9月1日にオープンしたが、開館時における展示をはじめ、今年度の新展示である中世代展示室照明演出システムや野外実物大恐竜を中心に紹介された。

##### 1 館の特色

①自然史に関する資料を収集、保管、展示および調査研究し、あわせて充実した教育活動ができる機能をもたせた。

㊦①地球の歴史②生物の進化③自然のしくみの3つをメインテーマとし、子どもから大人までわかりやすく楽しく見学できるように配慮した。

##### 2 展示内容(展示物とその手法)

①シンプルな実物展示 アナトサウルス骨格標本等

㊦実物を模したレプリカ展示 アナトサウルスの頭部等(直接さわることができる)

㊧ジオラマ展示 環境を含めて紹介している。

㊨音響や映像を利用した展示 展示室導入部では、タイムトンネルを設定し、現代から過去にさかのぼるように人が入るとセンサーが感知し、パネルの絵が浮き上がり、ボディソニックにより臨場感を高めている。ビデオ、コンピューターによるQ&Aやミニシアターもある。

㊩参加型の展示 歯の動きや関節のしくみが来館者がハンドルをまわすことによって理解できるというもの。

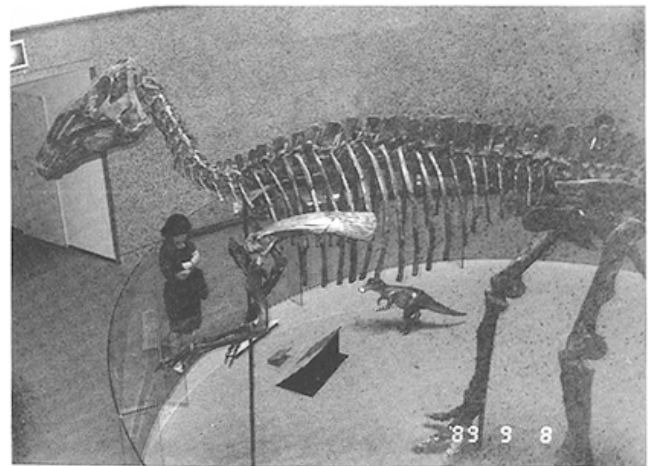
##### 3 新展示について

①中世代展示室照明演出システムを導入。舞台照明

設備をベースに音響(ナレーション、BGM、効果音)を使った方法で3分40秒の演出である。30分毎に上映している。

㊦野外実物大恐竜の設置。屋外にある恐竜ランドの充実を目的とし、現在は草食恐竜3体だけであるが、草食恐竜5体、肉食恐竜2体を設置予定。FRPを使って制作中で来年3月に完成する。

来館者の意見として、「実物化石を増やして欲しい」「解説がむずかしい」「恐竜にさわりたい」「パソコンやQ&A、映像などのソフトを増やして欲しい」等が出ており、現在対応中である。また、同館は常設展だけでスタートしたが、今年度から企画展も開催している。



#### 〈豊橋市地下資源館学芸員 坂本博一氏〉

『展示改装事業を中心として』

昭和55年11月1日に開館した豊橋市地下資源館の概要、活動状況、展示改装計画について説明いただいた。

##### 1 活動状況

計画学習として市内小学校の生徒(5年生)及び中学校の生徒(2年生)を対象に学校教育の一環として見学させている。また、毎週日曜日に映画会を、1年に1回~2回の講演会を開催。

##### 2 展示改装計画

①改装のねらいは、生活に関係の深い地下資源やエネルギー資源の資料を紹介しながら将来を展望し、科学的な興味と関心を高める。

㊦改装の基本方針は、①実物資料の充実②参加型展示物の導入③新素材による先端技術の紹介④資源利用の歴史的経過の紹介⑤解説の平易化である。

㊧改装の留意点は、①既存の展示物とのバランスや展示内容の系統性を考慮する②新しい観点による展示方法を導入する。③入館者が親しめるように展示物は、見やすくわかりやすいものにする④入

館者が直接参加できるものを導入する⑤展示装置等の安全性を考慮する⑥展示空間を有効に使い、適切な配置を考えるのである。

1年次(昭和62年度)には、セラミックや新しいエネルギーに関する実物展示や実験装置が加えられ、2年次(昭和63年度)には、石灰石やガス、3年次(平成元年度)には、銅や鉄の展示のほか、郷土の地下資源が紹介される。4～5年次(平成2～3年度)は宝石・貴金属の実物展示をはじめ、エネルギーの歴史や形状記憶合金など新しい金属が紹介される予定である。また、資料展示室の増設も計画されている。

#### ＜おかざき世界子ども美術博物館学芸員

荒井信貴氏＞

##### 『展示の特殊性と問題点について』

おかざき世界子ども美術博物館は“21世紀を担う子どもたちに、国際的な広い視野と豊かな創造力を養う”施設として昭和60年5月に開館した。ユニークな活動を展開する同館の展示内容をはじめ、展示の特殊性と問題点についてお話いただいた。

1 館の機能は、①美術博物館展示部門(見る・考える)と、②親子造形センター(作る)から成る。

2 展示内容(常設展示)

①企画展示室は、①アルタミラ洞窟壁画と宇宙へのメッセージ絵画で過去と未来を対比、美術の流れを概観②大人から子どもたちへのメッセージ作品③世界の玩具と子どもの絵から成る。

②第1展示室 世界の子どもの絵

③第2展示室 著名美術家10代の作品

④第3展示室 原始美術(バブア・ニューギニア、アフリカの民族資料)

⑤2階展示(廊下) 岡崎市内の児童、生徒の作品(収蔵品展)

3 展示の特殊性と問題点

子どもの美術博物館として見学対象の中心を子どもに置く。

①展示テーマの設定 子どもに身近なテーマ設定が必要である。例えば世界の玩具を取りあげた場合、造形作品としての展示ではなく、一部実際に触れさせるなど遊ぶための道具としての展示に興味を示す。また、原始美術の場合、現代美術との比較展示は、高度すぎてむずかしい。様々な表現の断片としてとらえ、子どもたちの身近なものと比較させ、理解させる。

②具体的な展示

①キャプション

②子どもは、キャプションを読むか?

説明は簡単にわかりやすく。(小学校4年生程度) 高度な内容は、図書室へ。

③どうしたらキャプションを読むか?

読ませるためのワン・アクションをくふうする。親子のかたらいなど大人の指導により理解させる。

④展示高 子どもに適した高さにして展示品との距離を近づける。

⑤導線 大人は常識として順路に従うので強制導線が必要であるが、子どもは興味のおもむくまま行動するので、導線はあまり必要でない。コーナーごとの充実を図るべきである。

4 多面的な意味を持つ収蔵資料

①子どもの作品

①美術作品としてとらえる。年齢に見合った成熟度(観察力・表現能力・技術力)——美術教育

②心象表現としてとらえる。感受性の表現として分析——児童心理学

③生活環境を含めてとらえる。子どものもつ時間的・空間的位置——文化(社会)人類学

④原始美術・玩具——造形作品・民族資料という二面性がある。

同館は、開館以来、名画展なども開催し、大人の美術館の印象もあった。しかし、来館者のほとんどが幼児から小学生までの低年齢層である。現在では、“自由に遊びながら学ばせる”という方向で、子どもたちのための展示を心がけているようである。

#### ＜熱田神宮宝物館学芸員 野村辰美氏＞

##### 『展示効果について』

宝物を一般公開して神社の理解と神徳宣揚を図るため、昭和41年12月に開館した熱田神宮宝物館の展示とその効果についてお話いただいた。

1 展示室及び展示の概要

①展示室(2室)は、逆L字形で左廻り。壁面はクロス、前面はガラスで移動可能。照明は蛍光灯(美術・博物館用)一部スポットクールビーム。移動式展示ケースに2種がある。

②展示

①収蔵品を分類展示し、古神宝、彫刻、工芸品、楽器、書跡、典籍、絵画、考古、刀剣等に分ける。

②展示台を利用する。ベースとして60×90×40cmの展示台を使用。色は紺系統でこの上に展示品によって、ペッチン、斜台、刀掛等を補助する。

③名称、説明

①名称には指定・品名・時代、員数を入れる。

②説明は120～150字程度で手書きで行い、ケース

内に設置。

## 2 効果について

- ①入館する意欲を起させる。シンボル展示が外から見える。
- ②入館者に何を語るのか。
  - ①特別展年1回、企画展年1回を開催し、常設展は毎月1回展示替えする。
  - ②実物を主に展示。写真パネルは補助程度。
  - ③分類展示の最初に概説を行う。
  - ④鑑賞的展示形態をとっている。

3 問題点としては、①楽しい展示ではない②熱田神宮のすべてを知ることができる展示ではない等である。

同館では、開館以来、あまり展示形態を変えていない。オーソドックスではあるが、博物館の鑑賞展示の基本である実物を中心に展覧している。

## 新規加盟館紹介

昭和63年度に当協会へ加盟されました10館の内、前号掲載以外の5館の概要をここに紹介します。

### 電気文化会館 ELECTRICITY MUSEUM BUILDING

所在地 〒460 名古屋市中区栄2-2-5

電話 (052) 204-1133

交通 地下鉄「伏見」駅下車4番出口から東へ徒歩2分

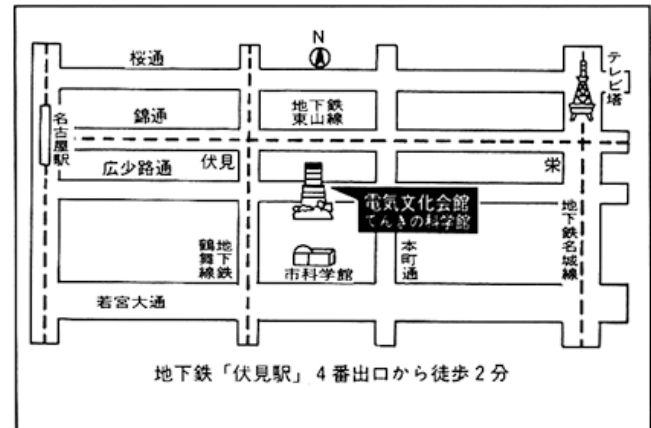
沿革 電気文化会館は、さまざまな芸術、文化活動を通じて、新しい感動を生み出す場として、名古屋の都心伏見に昭和61年7月にオープンしました。この会館には名古屋で初めての音楽専用のコンサートホール、多目的に利用できるイベントホール、大規模な展覧会の開催可能な2つのギャラリー等があり、貸ホール、ギャラリーとして地域文化の向上に寄与しています。

施設 ○コンサートホール（地下2階）  
395席（固定椅子）  
○イベントホール（5階）  
266㎡最大300席（移動椅子）  
○ギャラリー2室（5階）  
1室320㎡壁面60~105m

開館 催物主催者で開催時間は決定される

休館日 毎週月曜日（ただし祝日または振替休日になった場合は翌日）および12月29日から翌年

の1月4日まで



特色 ○残響2秒の豊かな響きと親子室が設置されたコンサートホール。  
○グループ展など移動パネルを活用しての大規模な展覧会が可能なギャラリー

### 楽只美術館（財団法人 松蔭会） THE RAKUSHI MUSEUM OF ART (THE SHOINKAI FOUNDATION)

所在地 〒461 名古屋市東区泉一丁目17-28

電話 (052) 961-3578

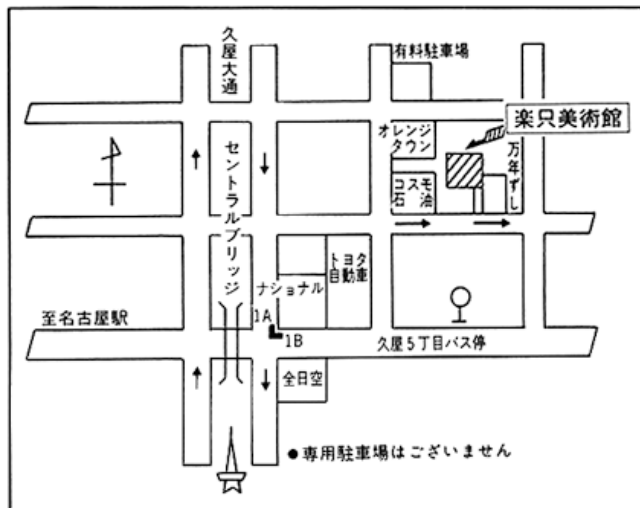
交通 地下鉄 久屋大通駅下車、1A or 1B出口より徒歩約3分

沿革 楽只美術館は茶道松尾流12代家元、葆光斎宗倫宗匠の寄贈に基づき、松尾家に伝来してきた茶道具を始めとする美術工芸品を一括保存し、公開を図り茶道の調査・研究を進めるとともに茶道文化の普及奨励を目的として開設

されました。

施設 敷地 585.66㎡  
鉄筋コンクリート造2階建 延面積418㎡  
展示室 101.68㎡  
(1階 67.48㎡ 2階 34.20㎡)  
収蔵庫 16.10㎡  
集会室 105.78㎡  
図書室 10.58㎡  
その他 183.86㎡

開館 10:00~16:00  
休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始、  
展示替期間、  
(月曜日が祝日の時は翌日と翌々日)



入館料 一般300円、団体(20名以上)200円  
特色 ○所蔵品は、茶道松尾流家元に代々伝えられてきた茶道具を中心に、当地方にかかわりの深い美術工芸品を収蔵しています。  
○2階の茶室・集会室を貸室として、いろいろな催しに御利用いただけます。

○教育普及として茶道講座や各種の研究会を開設し、夏には茶碗作り等の作陶教室を行っています。

## メナード美術館 MENARD ART MUSEUM

所在地 〒485 小牧市小牧五丁目250番地  
電話 (0568) 75-5787  
交通 名鉄犬山線「岩倉駅」下車バス乗りかえ名鉄バス市民病院経由小牧駅行「文化福祉会館前」下車すぐ  
名鉄小牧線「小牧駅」下車徒歩10分  
東名高速道路I・Cから車で10分

沿革 メナード美術館は、日本メナード化粧品株式会社社長夫妻が、20数年にわたりコレクションした美術品を文化貢献の一環として昭和62年10月29日より一般公開したものです。  
近・現代絵画を主体に、洋画・日本画・版画・彫刻等600点、工芸・古美術等400点、合計1,000点の美術品を所蔵しています。  
これらの美術品を逐次展示し、特別企画展とともに「美と文化を育む」スペースとして皆様に親しまれています。

施設 敷地面積 3,550.65㎡  
鉄筋コンクリート平屋建、一部二階建  
延床面積 1,398.97㎡  
館内は、エントランスホール(受付)、ギャラリー、展示室3室、ティールーム、管理部門で構成されています。

開館 10:00~17:00 (入館は16:30まで)  
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は開館)  
年末年始・展示替により臨時休館することがあります。

入館料 一般500円(450円)  
高大生 400円(350円)  
小中生 300円(250円)

※カッコ内は20名以上団体料金

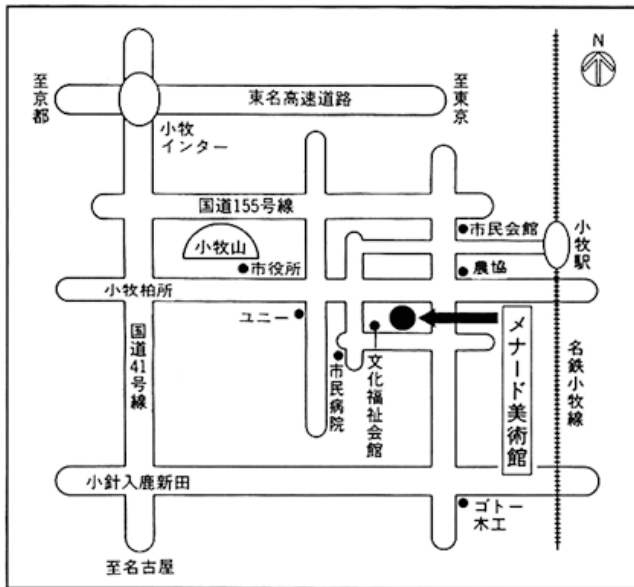
〈特別展実施の場合は別に定めます〉

特色 ○ゴッホ〈一日の終り〉、マネ〈黒い帽子のマルタン夫人〉、ピカソ〈静物=ローソク、パレットと牡牛の頭〉、シャガール〈夏=収穫と落穂拾い〉、佐伯祐三〈街角の広告〉、安井曾太郎〈腰かける裸女〉、坂本繁二郎〈林間馬〉、梅原龍三郎〈裸婦鏡〉、ロダン〈バルザックの最

終習作)、ブールデル<弓を引くヘラクレス>、速水御舟<芙蓉>、小林古径<八重山吹>、横山大観<黒潮>、安田靫彦<王昭君>、板谷波山<彩磁草花文水指>、富本憲吉<金銀彩羊歯角飾篭>、加藤唐九郎<黄瀬戸鉦鉢>等、近・現代を中心とした、東西巨匠の名品を収蔵展示しています。

○年1回～2回特別企画展開催

○小牧市の小・中学生の美術教育に協力



## 南知多ビーチランド MINAMICHITA BEACHLAND AQUARIUM

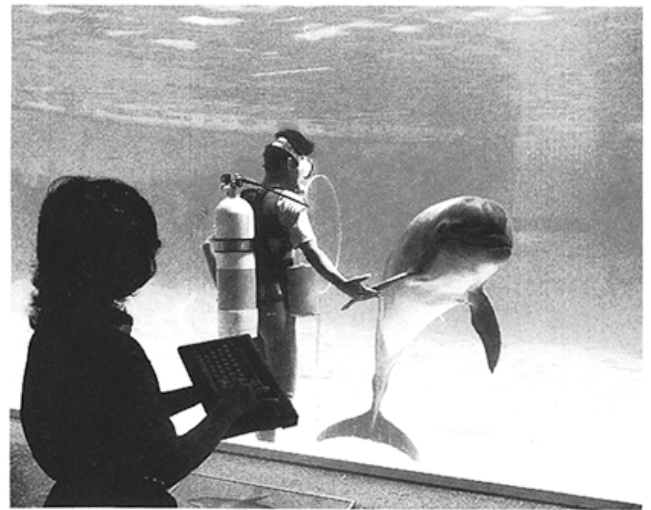
所在地 〒470-32 知多郡美浜町奥田  
電話 (0569) 87-2000

交通 名鉄知多新線奥田駅下車徒歩10分、又は上野間駅下車知多バス7分-(特急接続)  
知多半島道路美浜インターより車で10分。

沿革 三河湾国定公園の健全なレクリエーションの場として昭和55年4月に開館。海洋生物の保護啓もうを目的とし、教育、調査研究、エンターテイメントが理念。総合海浜公園として広く親しまれている。

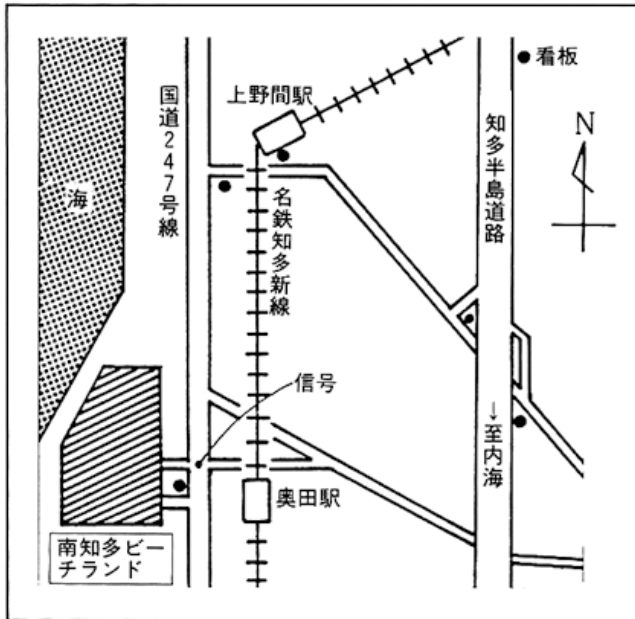
施設 敷地93,400㎡(海洋ゾーン、遊園地ゾーン含)  
イルカスタジアム  
イルカ対話ホール  
海洋館(展示ホール、大水槽)  
ラッコ館  
ペンギンプールなど

開館 9:30~17:00 (3月1日~6月30日)  
9月1日~11月20日)  
9:00~17:00 7月1日~8月31日  
10:00~16:30 12月1日~2月末日  
(年中無休)



入館料 大人1,000円 小学生600円 幼児(3才以上6才未満)400円(平成元年10月現在)  
団体割引は25名以上

特色 ○オキゴンドウ、ハナゴンドウ、スナメリなど5種のイルカを飼育展示しています。  
○ラッコ、アシカ、アザラシを飼育展示しています。  
○1,000トンの魚の大水槽があります。  
○イルカ・アシカショー、水中ショーなどを毎日実施しています。  
○遊園地にはジェットコースター、メリーゴーランドなどがあります。



## 岡崎市郷土館 OKAZAKI CITY LOCAL MUSEUM

所在地 〒444 岡崎市朝日町3丁目36-1

電話 (0564) 23-1039

交通 名鉄東岡崎駅下車、北東へ徒歩15分、または名鉄バスにて徳王神社前下車徒歩5分。

国道1号線北側、市役所及び消防本部東側。

沿革 岡崎市郷土館は、旧額田郡中央公会堂として大正2年12月に建てられました。コロニアル風の優雅な建物で、当時はこの地方における唯一の大集会場でした。昭和42年市民会館が創設され、当初の使命を果たすとともに、昭和44年4月1日岡崎市郷土館として再スタートしました。

現在は、市内出土の考古資料や、市民から提供された歴史資料等を展示・收藏し、なおかつ調査・研究の場として郷土史家のみならず、市内外の多くの方々に親しまれています。

施設 本館：木造平屋建 541.3㎡  
(うち展示室約300㎡)

作業棟： 〃 47.9㎡

收藏庫： 〃 171.6㎡

開館 9：00～17：00 (但し入館は16：30まで)

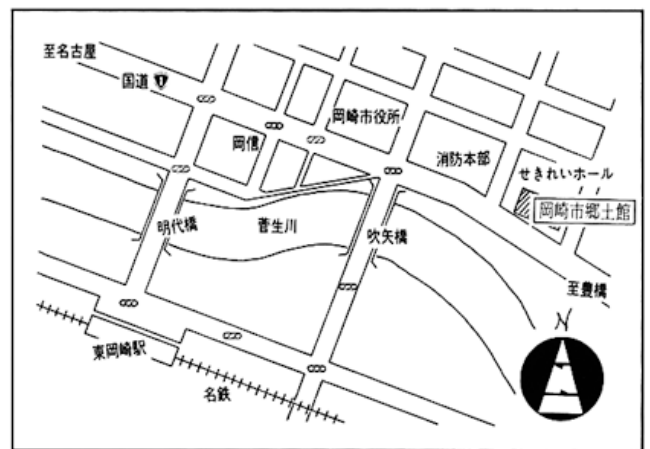
休館日 月曜日、祝日、市政記念日(7月1日)、  
年末年始(12月29日～1月3日)

入館料 無料

特色 ○常設展示の他に收藏品をもとにした年2回の「收藏品展」と、地方史研究会(事務局：当館)会員の所蔵品による「もちより展」

を年1回開催しております。

- さらに随時に「企画展」を行っています。
- 郷土文化の活動として郷土館報を隔月発行しています。
- 地方史研究会の事務をとり行うとともに年1回研究紀要を発刊しています。
- 所蔵資料は、考古資料・民俗資料・文書等です。



### 「愛知の博物館」No.49

発行日 平成元年12月10日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

<0561> 84-7474